

# 京都らしさを贈れるカタログギフト『京もの愛用券』

## News Letter Vol.3

引き出物、お祝い、お返しに…贈る相手の方に品物を選んでいただけるカタログギフト。昨今では従来の商品を総合的に取り揃えたカタログギフトに加え、北欧雑貨、旅行や食事などの“体験”をプレゼントするものなど、個性豊かなカタログが登場してきました。

京都府でも、京都の伝統工芸品をはじめとする「京もの」に特化したカタログギフト「京もの愛用券」を販売しています。「京もの」と言えば、特別なものと思いがちですが、「もっと気軽に日々の暮らしの中で京ものを楽しんでいただきたい」という思いから、京都府が協力し、京都試作センター株式会社が販売をしています。京都府は、この事業を通じ、京都の若手職人たちの新しいものづくりの展開を推し進めるとともに、サポートも行っています。

このニュースレターでは、「京もの愛用券」の特徴を改めてご紹介するとともに、カタログギフトでは伝わりきれない職人の方の思いやこだわりをお伝えするため、「京もの愛用券」に参画している職人の方をピックアップしてご紹介します。

京都で生まれ育まれた、数々の伝統的な技術を駆使した逸品であると同時に、現代の生活様式にもなじむ「京もの」を集めた『京もの愛用券』と、「京もの」を日々生み出す京の職人たちにぜひご注目くださいますよう、お願い申し上げます。



### <INDEX>

#### P1 京もの愛用券の特徴

#### P2-3 錦織美術の第一人者「龍村光峯」のご紹介

#### ◆京もの愛用券の特徴◆

##### ①京都ならではのプレミアム感が詰まった贈り物

伝統、文化などどこをとっても格別な魅力を放つ京都のまちで作り上げた京ものは、まさに京都ならではのもの。

##### ②「京もの」は品格・品質に優れた逸品

西陣織、京友禅、京焼・清水焼に代表されるように、伝統と文化のものづくりが脈々と受け継がれている京都で、手間、ひま、心をこめて作る商品は決して他には追従できない品格と品質を誇る。

##### ③デザイナーが「本当にいいもの」を選定

伝統素材の商品企画から住空間のデザイン・プロデュースまでを手掛けるデザイナーが「暮らしの中で普段使いできる京もの」をコンセプトにセレクト。



#### ◆販売価格及び商品点数◆

- |                        |     |
|------------------------|-----|
| ① スタンダードコース(3,675円税込)  | 44点 |
| ② ロイヤルコース (5,775円税込)   | 33点 |
| ③ プレミアムコース (11,025円税込) | 23点 |
| ④ エクセレントコース(32,025円税込) | 22点 |

#### ◆購入方法◆

京もの愛用券公式HP <http://www.kyoto-gift.jp/>  
の注文フォームよりお申込み

## 第二弾【株式会社龍村光峯 代表取締役 龍村周(たつむらあまね)氏】

今回は、錦の伝統織物工房「光峯」を訪ねました。『京もの愛用券』では「錦織がま口コイン入れ、錦織印鑑入れ(スタンダードコース：3,675円)」「錦織マイ箸入れ(ロイヤルコース：5,775円)」を出品されています。

### 「織物はアメフトと一緒に。完璧に一人ひとりが自分の役割を果たさなければ、成り立たない。」

錦の伝統織物作家であり、株式会社龍村光峯代表取締役の龍村周氏。高校時代にアメリカンフットボール部に所属した経験が、現在のもの作りの世界にも生きているのだという。一見まったく違う世界に思いがちだが、通ずるものがあるそう。「錦の織物の世界は、図案から紋意匠図、紋彫り、製糸、糸染め、など約12の工程を経て生み出される。また、道具一つ一つにも職人がいて、ひとりとして同じ役目はなく、作品に関わる全ての人が欠けることなく、プロとして自分の役目を果たさなければ、一つの作品を作ることは到底できない。アメフトのポジションにおいても同じで、自分のポジションでの役割を果たさなければ、勝てない」と語る。

若いころは音楽にも熱中したという周氏。ロックが大好き、と無邪気に笑う周氏。代々龍村家はディレクターの役割で、機織りは専門の職人に任せるが、周氏は自ら機織り機を使いこなす。ドラムで培ったリズム感が何年もかけて習得する機織りの技を音で覚えたという。また機織りでは手足を別に動かす必要があり、苦戦する人が多いが、手足を別で動かすドラムをやっていたお蔭で飲み込みが速かったという。「伝統文化は“特別なもの”と思いがちだが、音楽をやること、スポーツをやることにも通じる。特別なものというハードルを下げられるようにしていきたい」と強く語る。



株式会社龍村光峯・代表取締役  
龍村周(たつむらあまね)氏  
1974年、龍村光峯の長男として生まれる。東京造形大学卒。錦の織物製作を中心に、自ら伝統的な高機(たかはた)を用いた製織も取り組む。現在、若い人へに伝統工芸を伝えるため、同志社大学の講師も務める。

### 当時使われた繭から機まで。軽くて柔らかい古代「錦」の織物を再現。

錦織における周氏の役割は、数ある工程の職人たちをまとめあげるディレクター。周氏の言葉を借りれば、「映画で例えるなら、宮崎駿さんのような存在」だ。だからこそ、現代の織物業界の危機的状況を憂い、織物の研究や職人たちの保護に奔走する。錦の織物は、伝統的に1200年以上前に中国から日本に伝わった高機(たかはた)の機を用いて手織りで制作されてきた。近年、動力を用いて織る力織機が主流となるが、芸術性に優れた織物を作り出すには、高機(たかはた)のほうが優れているのだという。

だが、高機(たかはた)を作る職人も、高機(たかはた)を用いて織物を織る職人も、後継者がおらずごく僅かだという。伝統を受け継ぎ守っていかうとしても、その道具や、数ある工程の職人たちがいなくなれば、「錦」の織物は消えてなくなってしまう。そう憂いた父の錦織美術家龍村光峯は、「総合的復原事業」と称し、古代の織物や裂などを研究し、再現するだけでなく、復原することで職人たちに「新たな仕事」を創出し、伝統技術の保存を行っている。「復原」とは気の遠くなるような作業の繰り返し。染料や織り方を古代裂から細かく分析するだけでなく、できるかぎり古代の技法を用い、同じ植物で糸を染め上げ、当時のものと同じといっても差支えない条件と状況を機上に作り出すことを指す。また、製糸の繭に至るまで研究がなされている。現在のものは大量消費社会に合わせて改良された蚕を使っているため、古代のものとは全く異なる。さらに錦の織物と言えば重いイメージだが、古代当時の繭から製糸されたもので錦の織物を作るとふわりと軽く、柔らかく織りあがる。大きな事業として「倭錦」の復原にも取り組み、奈良時代、平安時代、室町時代の3時代の変遷を見事に復原させた。



↑ 赤地花菱櫛状鳥花文錦(あかじはなびしたすきじょうちょうかもんきん)  
機装置と推測されるろくろ装置を制作し、平安様緯錦の特徴を備えた本裂を復原した。

## 制作をする前段階のデザイン(設計図)を描くのに1年以上かかる。



↑「紫の追憶」

総合的復原事業のほか、錦織の第一人者として、その名が高い「龍村光峯」は、皇室や神社などに納めるご神宝など、ありとあらゆるところから注文を受ける。その細やかで美しい織物で最も時間がかかるのは、デザイン(設計図)部分なのだという。経、緯、配色をどうするかを考えて設計することに、時には1年以上の時間を費やすのだそうだ。丁寧に作られたそれらの織物は、配色数がゆうに100色を超えることも多い。

たとえば「源氏物語」1000年事業の際に作られた「紫の追憶」は、父・光峯氏によるものだが、設計から織り上げるまでに2年の月日を要した。美しさだけでなく、織物とは思えないほど繊細で、非常に高い芸術性をもつ工房の代表作だ。「源氏物語」といえば、研究者が多いだけに時代考証には諸説ある。そのため、時代考証には特に注意して研究を重ね、結果的に詳しい記述がほとんど残っておらず、あまり描かれていない「光源氏の誕生」という場面を創作することになった。

歴史的に例のない織幅で、錦織の美術作品として織り上がった大作だ。また「光源氏の誕生」をこっそりのぞく作者・紫式部を描き、「光峯」ならではの遊び心を取り入れた。額縁までも織り、たたみも本物の井草を取り寄せ見本とし、どこまでも本物にこだわり、「光峯」の技を合わせた日本で1点しかない作品が仕上がった

## 身近にあるもの全てデザインの参考になる

デザインや作品の企画の考案には、「身近にあるものが全て参考になる」のだそう。先述のように周氏がかつてアメフトに取り組んでいたが、大好きなチームのカラーをデザインに取り入れたりもしている。現代のものをうまく伝統的なものに取り入れ、昇華しているところがファンを惹きつけるのだろう。また幼い頃から書を習っていたということから、文字すなわち象形文字からインスピレーションが湧くこともあるそう。例えば、象形文字のようでありながら、ステンドグラスの要素も取り入れ、淡く美しい織物を作ってみたり、今年の干支のデザインを新たに考案し、様々なグッズを作ったり、と作品作りにも余念がない。また木目調の盆の柄をそのままデザインに取り入れた作品もある。ぱっと見ただけでは「織物」と気づかないほど、繊細な作品に仕上がっている。

あふれるほどの制作意欲を持つ周氏。今後力を入れていきたいことは?と伺うと「全て」と答えが返ってきた。伝統を守りながら新たな作品を作ることはもちろん、最後の世代になるかもしれない今の職人たちの技術をどう吸収し受け継いでいけばいいのかを考えることも、全て大事。また機織り体験、工房見学などを通じ、若い人が伝統文化と深く繋がる環境作りをしていくことも大切だと話した。その道乗りは決して楽な道ではないが、「モノ作りが好き」という、その一心で今もこれからは日常を楽しむように、「錦」の織物を守り、受け継いでいくに違いない。



左:錦織「亀あそび」  
右:今年の干支「馬」の紋様の作品  
下:木目調の盆の柄を織物に



### <龍村光峯(一般財団法人日本伝統織物研究所)について>

龍村光峯は世界に誇る錦織美術の第一人者として、4世代にわたり「錦」の織物の研究および制作を行っている。光峯長男の周(あまね)氏が跡を継ぐべく龍村家としては初めて自ら高機を織る。陶芸、書、篆刻なども制作。工房見学、機織り体験なども開催。

《予約方法》お名前、日時、サロン名、見学希望日、人数を明記の上、メールか電話にて申込み。

E-mail: info@koho-nishiki.com

電話:075-491-9145(受付時間:平日午前10時~午後5時)



錦の伝統織物  
KOHO

光峯

### 《本件に関するお問い合わせ》

京都試作センター(株)京もの愛用券事務局

担当:吉原・藤田

TEL:075-316-2100

FAX:075-316-2122

京都府広報代行 <(株)オズマピーアール内>

担当:阿部・荻布

TEL:03-4531-0225

FAX:03-3265-5058